

対象年度		令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート												
事務事業名		友好都市交流事業						予算事業名		友好都市交流事業費						
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分								
				10	05	03	2005	経常経費	根拠法令							
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文							事業の区分	主要事業						
		4-6国や地域を越えた交流の推進 (国際交流・地域間交流)														
		②地域間交流の促進							担当課係等	生涯学習課						
事業期間		継続 (平成14年度～令和 3年度)								生涯学習係						
【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】									
結城市の子どもたちが結城市の歴史や文化を知り、さらに福井市との関わりや福井市の歴史や文化等を学び、福井市の子どもたちとの相互交流を図ることによって、様々な体験、交流活動を通し、積極性や協調性を養い、結城市の将来を担うリーダーを育成する。							結城市と福井市の歴史的な繋がりを縁として、平成14年4月に友好都市締結が行われ、その年の7月から小学生相互交流が始まった。また、実施主体が福井市では子ども会ということで、平成22年度から担当課が指導課から生涯学習課へ移管された。									
【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】									
・友好都市の相互訪問を通し、結城市と福井市の歴史的な関わりを学ぶ。 ・藍染や機織りなど様々な体験をすることで、歴史や文化に触れる。 ・共同作業、宿泊をともにすることにより、子ども同士の交流を深める。 ・事前、事後学習会及び報告書の作成や事業実施報告作品展を行い、事業の効果的な実施と広報を図る。 ・子ども親善大使任命書を交付し、親善大使としての意識づけを行う。							市内小学6年生									
							【事業をとりまく環境の変化】									
							交通手段の発達やインターネットの普及により、いつでも、どこからでも、様々な交流が可能な時代を迎え、今後は、交流を育む受け入れ体制の充実や、情報発信の工夫など多様な施策の展開が求められている。									
【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】								
結城市福井市の子ども親善大使各8人の相互訪問による交流 事前・事後学習会の実施 事業実施報告展示会の開催				結城市福井市の子ども親善大使各8人の相互訪問による交流 事前・事後学習会の実施 事業実施報告展示会の開催				結城市福井市の子ども親善大使各8人の相互訪問による交流 事前・事後学習会の実施 事業実施報告展示会の開催								

■事業費

		R01年度	R02年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	623	676			
歳入計 (千円)		623	676			
歳出内訳	節 (番号 + 名称)	金額 (千円)	金額 (千円)			
	08 旅費	104	157			
	10 需用費	10	10			
	18 負担金補助及び交付金	509	509			
歳出計 (千円) (A)		623	676			
伸び率 (%)			8.50			
備考	総合計画129ページ 予算書180ページ					

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	実施日数（事前・事後研修含）	日	目標	9.00	9.00	9.00
			実績	9.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	参加児童数	人	目標	8.00	8.00	8.00
			実績	8.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	学校教育だけでは学習することができない、両市の歴史的な背景や文化等について学ぶことができる機会となっている。また、様々な人とかかわったり、体験活動をしたりするなど、日常生活では味わえないことができる点で必要といえる。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	福井市では実施主体が子ども会であるが、結城市では参加者が子ども会に限られていないため、行政が実施主体とならざるを得ない面がある。
	手段の妥当性	A 妥当である	福井市と交流都市となっている歴史的なかわりを学ぶ中で、両市の伝統工芸や食文化について知ることは有益なことである。
効率性	コストの効率性・人員効率	C 改善の余地はある	生涯学習係全職員が対応にあたり、宿泊指導をしたり、日程や施設見学の決定から引率など多くの部分を担っている。市子連と調整を行い、役割の分担等を行うなど改善の余地はある。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	令和元年度における市内小学校6年生の在籍数は496人に対し、応募数が11人あり、応募時に提出された作文により8人を選考したが、参加者が少人数に限られてしまう。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	事業後は、子ども同士だけでなく、市子連役員も含めて福井市との交流が広がっている。また、作品展での活動報告においては、来訪者に事業の説明をする経験などを通して、人前でも自信をもって発表できる力を身に付けることができた。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	計画通りに進んでいる。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
参加者の様子や感想等を見ると、子どもたちにとってこのこの事業が効果的であったと評価できる一方、例年参加希望者が少なく、選考に苦慮している状況である。また、事業が、市民に広く浸透していないと感じられるので、子ども親善大使として活動してきたことを、多くの市民に伝えられるように、周知方法を改善していかなければならない。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
参加者を募るにあたり、周りから子どもたちに参加を促してもらえよう、多くの市民に浸透する周知方法を検討していくとともに、より魅力的な事業となるよう、交流の方法等について、福井市と調整・協議していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
方向性の具体的内容 現在の交流方法では、参加者が8人と限られてしまうため、より多くの小学生が参加できるよう、交流方法を含めて検討することも必要である。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。